

第57次南極地域観測隊(JARE57)

輸送オペレーションと南極での夏期設営作業

昨年の第56次隊は、第55次隊に引き続き昭和基地接岸を果たし、しらせに搭載したすべての物資を輸送した。昭和基地の燃料備蓄量は回復したが、車両更新などは未だ充分ではない。今年も昭和基地周辺の海氷状況は予断を許さない。第57次隊でも昨年同様に様々な状況を想定し、現地で臨機応変に対応できるよう準備を進めた。最優先の課題は、越冬成立のための燃料、食料等の物資輸送だが、可能な限り車輛や設営物資を輸送して遅れている設営計画の進展を目指す。

氷上輸送

接岸の如何に関わらず、重要な輸送手段である氷上輸送。昭和基地までの距離と海氷状況に応じて柔軟に対応する。接岸をはたせば、貨油をパイプ送油する。

大型ヘリコプターに搭載できない大型物資は、氷上輸送を行う



接岸すると、しらせの貨油タンクから基地の燃料タンクへパイプ輸送する



しらせ搭載の大型ヘリコプターによる空輸



観測隊小型ヘリコプターによる野外観測



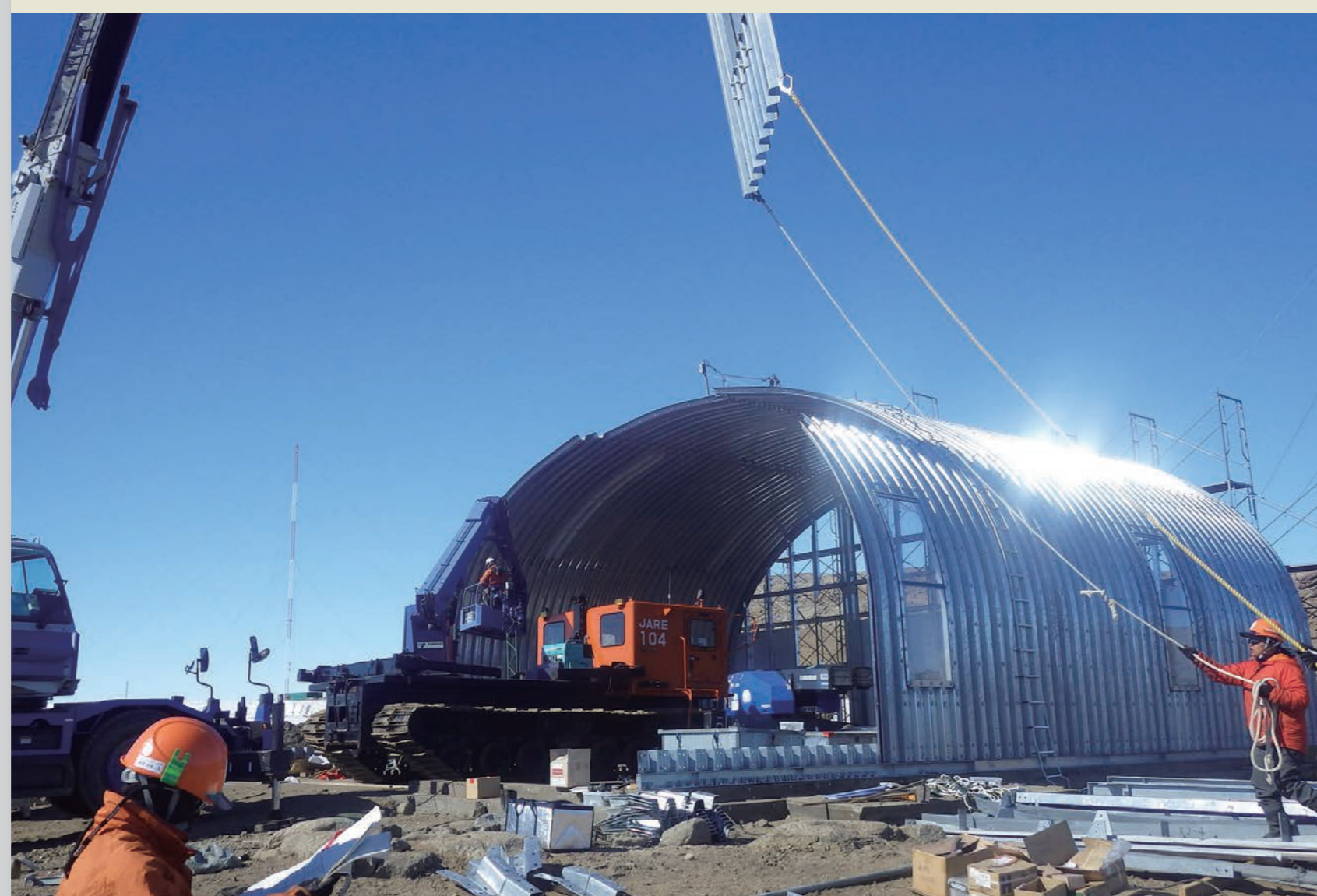
空輸

大型物資以外は、しらせ搭載大型ヘリコプターにより空輸する。観測隊がチャーターする小型ヘリコプターは主として昭和基地周辺の野外観測に使用するが、状況によっては輸送にも活用する。

基地設営作業

南極の短い夏期間には様々な設営作業を集中して実施する。物資輸送状況に対応可能な設営作業を計画した。

夏作業でしか実施できない大型建物の建築



昨年に引き続き、風力発電機2号機の建設作業も実施する

